

全国学力・学習状況調査 南相馬市調査結果（令和7年度）

全国・福島県・市内小学6年生の平均正答率（%）

国語・算数・理科（平均正答数/設問数）

	国 語	算 数	理 科
全 国	6 6 . 8	5 8 . 0	5 7 . 1
福島県	6 5	5 5	5 6
南相馬市	6 1	5 6	5 2

南相馬市立石神第一小学校 全国学力・学習状況調査分析

- 1 実施日 令和7年 4月17日（木）本体調査
- 2 調査対象 第6学年児童（11名）
- 3 調査内容 （1）教科に関する調査（国語、算数・理科）
（2）学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査

4 調査結果

（1）教科に関する調査

- ・国語は、「知識・理解」の観点で、全国平均正答率を上回りました。領域別に見ると「話すこと・聞くこと」に課題が見られたため、自分の考えと比較する意識を持たせる学習場面を取り入れていきます。
- ・算数は、正答率が概ね全国平均でした。領域別に見ると「数と計算」で平均正答率が高かったものの、計算ミスも見られたため、今後も授業や学習等で、基礎学力の定着を図っていきます。
- ・理科は、全国平均正答率を上回りました。要因としては、観察や実験を多く取り入れたことで、自然の事象や現象をよく理解したと考えられます。

（2）児童・生徒質問調査

・成果が見られた項目

「友達関係に、満足していますか。」

「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。」

「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると感じますか。」

・課題が見られた項目

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと感じますか。」

「学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」

「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。」

5 学力向上の取り組み

今回の調査結果から国語では「A：話すこと・聞くこと」、算数では「C：変化と関係」、理科では「A：粒子」に関する問題に課題が見られました。本校では今後、国語・算数・理科の学習において児童一人一人の学力・学習状況に応じた学習指導の改善・充実に取り組んでいきます。

(1) 国語科

- ①「主体的な学び」：単元の内容や時間のまとまりを意識し、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする時間を確保する。特に「何を、どのように学んだのか」を振り返らせることで、学びを深め、次の学習や実生活に生かす力を育成する。
- ②「対話的な学び」：対話的な学びとは、「他者との対話」「作品との対話」「自己との対話」であり、それらを整理し直し、多様な言語活動を授業に盛り込む。
- ③「深い学び」：多様な言語活動を駆使し、自分の思いや考えを広げ深める学習活動を構築していく。
- ④ 発達段階に応じて ICT 機器を活用し、個に応じた学力の向上に取り組む。

(2) 算数科

- ① 児童から「問い」を引き出し、児童が主体的に問題解決できるように工夫する。
- ② 互いの思いや考えを共有し、総合的・発展的に考察できるように話し合いをコーディネートする。
- ③ 問題解決の過程で、数学的な見方・考え方を適切に振り返らせ、児童がそのよさを自覚できるようにする。
- ④ 発達段階に応じて ICT 機器を活用し、個に応じた学力の向上に取り組む。

(3) 理科

- ① 児童が「解決してみたい」という思いを高め、児童が自ら見出した問題となるように導入を工夫する。
- ② 児童が話したくなるなど、児童が主体的に問題解決の過程を進めることができるよう工夫する。
- ③ 様々な知識がつながって、より科学的な概念を形成することに向かっているか、さらに新たに獲得した資質・能力に基づいた「理科の見方・考え方」を、次の学習や日常生活などにおける問題発見・解決の場面で働かせているかなどの視点から、授業改善を図る。

6 保護者（や地域）の皆様へ

子どもの学習環境や生活環境づくりについて、保護者や地域の方々のご協力をお願いいたします。

(1) 家庭学習について

- ・ 子どもが家庭で落ち着いて学習できる場と時間を確保する。
- ・ 保護者が子どもの学ぶ姿を見守りながら、認め、褒める。

(2) 読書について

- ・ 家庭で本が読める環境づくりをする。
- ・ 学校図書館や市立図書館を活用し、多くの本に接することができるようにする。

(3) 生活時間について

- ・ テレビやゲーム、スマホの時間など家庭のルールを守り、規則正しい生活をする。